## 13 対称行列の対角化

## - 対称行列は直交行列で対角化ができる! -

直交行列の逆行列は転置行列! 図形的には直交行列は回転や対称移動を表し, 重要である.

- 固有値に対する固有ベクトルが1種類のみ ⇒ 長さを1にすればいい
- 固有値に対する固有ベクトルが2種類以上⇒正規直交基底を構成せよ.

問題 13.1. 次の対称行列を直交行列により対角化せよ.

問題 13.2. 次の対称行列を直交行列により対角化せよ.

## 応用問題

問題 13.3. 2 次対称行列  $A=\begin{pmatrix} a & h \\ h & b \end{pmatrix}$  の場合は対角化する直交行列として特に回転行列  $R(\theta)=\begin{pmatrix} \cos\theta & -\sin\theta \\ \sin\theta & \cos\theta \end{pmatrix}$  を用いることができる。もし対角化ができた場合,すなわち  $R(-\theta)AR(\theta)$  が対角行列になるとき  $\tan 2\theta = \frac{2h}{a-b}$  となることを示せ.

問題 13.4. 次の2次対称行列を回転行列により対角化せよ.

$$(1) \begin{pmatrix} 1 & \sqrt{3} \\ \sqrt{3} & -1 \end{pmatrix} \qquad (2) \begin{pmatrix} 2 & 3 \\ 3 & 2 \end{pmatrix} \qquad (3) \begin{pmatrix} 5 & -\sqrt{3} \\ -\sqrt{3} & 3 \end{pmatrix} \qquad (4) \begin{pmatrix} 5 & -3 \\ -3 & 5 \end{pmatrix}$$

問題 13.5. 次の対称行列を直交行列により対角化せよ.

$$(1) \begin{pmatrix} 0 & 1 & -1 & 1 \\ 1 & 0 & 1 & 2 \\ -1 & 1 & 0 & 1 \\ 1 & 2 & 1 & 0 \end{pmatrix} \qquad (2) \begin{pmatrix} 2 & -1 & 1 & 1 \\ -1 & 2 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 2 & -1 \\ 1 & 1 & -1 & 2 \end{pmatrix} \qquad (3) \begin{pmatrix} 4 & 2 & 1 & -2 \\ 2 & -4 & -2 & -1 \\ 1 & -2 & 4 & 2 \\ -2 & -1 & 2 & -4 \end{pmatrix}$$